No. 8

昭和59年度帰国研修員巡回指導

昭和59年度

タイ、マレイシア国別調査チーム
報　告　書

国際協力事業団
研修事業部

122
36
TAD

研　管
J R
85－6

昭和59年度

タイ、マレイシア国別調査チーム
報　告　書

JICA LIBRARY
1017565[1]

国際協力事業団
研修事業部

国際協力事業団
受入月日 '85. 7. 16
登録No. 11716
122
36
TAD

は　じ　め　に

タイ，マレイシア両国は我が国の技術協力において主要な位置を占めているが，研修員受入れについても相当の実績を有している。

また近年は第三国研修のホスト国として，更にアセアン青年招へい計画やマレイシア東方政策等を通じ，両国と当事業部の結びつきは増々深くなっている。

本書はこうした背景を踏まえ，両国の技術協力窓口機関の訪問，帰国研修員との接触を通じ，両国からの研修員受入れ，第三国研修等に係る問題点ならびに要望を把握すると共に，当方からの要望を含め全般的な協議を行い，以て両国からの研修員受入れ等の向上・改善を図ることを目的として，昭和５９年７月１６日から７月２５日までの１０日間派遣した国別調査チームの報告書である。

本件実施にあたりご協力を賜わった外務省並びに在外公館・関係機関のご指導に深く謝意を表したい。

昭和６０年３月

研修事業部長

目　　次

頁

Ⅰ　国別調査チーム派遣の概要 …… 1
　1. 派遣の目的 …… 1
　2. 派遣の期間 …… 1
　3. チームの構成 …… 1
　4. タイ国における主な訪問先，面接者 …… 1
　5. マレイシア国における主な訪問先，面接者 …… 2
　6. 行動日程 …… 3
Ⅱ　協議の内容（タイ） …… 4
　1. 研修員受入窓口機関 …… 4
　　DTEC …… 4
　　総理府青少年局 …… 4
　2. 第三国研修実施機関 …… 5
　　キングモンクット王工科大学ラクラバン分校 …… 5
　　国立皮膚病研究所 …… 6
　3. その他のJICA協力関係機関 …… 7
　　青少年福祉センター …… 7
Ⅲ　協議の内容（マレイシア） …… 8
　1. 研修員受入窓口機関 …… 8
　　人事院（PSD） …… 8
　2. 第三国研修実施機関 …… 9
　　アジア太平洋放送研究所（AIBD） …… 9
　3. その他のJICA協力関係機関 …… 10
　　労働人的資源省人的資源局 …… 10
　　職業訓練・上級技能訓練センター（CIAST） …… 11
　　マラ工科大学（ITM） …… 11
　　マラヤ大学（日本文化研究館） …… 12
Ⅳ　東方政策に基づく帰国研修員との懇談 …… 13
Ⅴ　おわりに …… 14

I　国別調査チーム派遣の概要

1. 派 遣 の 目 的

タイ国及びマレイシア国は通常の研修員受入れ数において主要な地位を占めるのみでなく，第三国研修のホスト国として，又アセアン青年招へい計画，マレイシア東方政策等新規研修員受入れ事業を通し，当事業部との関連は増々強くなっている。当チームは両国の技術協力関連機関，帰国研修員との接触を通じ，両国からの研修員受入れ，第三国研修等に係る要望を把握するとともに，当方からの要望を含め全般的な協議を行い，以て両国からの研修員受入れ等の向上，改善に資する。

2. 派 遣 の 期 間

昭和59年7月16日～7月25日（10日間）

3. チ ー ム の 構 成

(1) 大 槻 章 雄　　国際協力事業団理事

(2) 橋 本 明 彦　　国際協力事業団研修事業部研修第三課長

4. タイ国における主な訪問先，面接者

〔タイ側〕

(1) Department of Technical and Economic Cooperation.

Mr, Apilas Osatananda — Director General.

(2) Youth Welfare Center.

Mrs, Saualuk Tepalagul — Director.

(3) King Mongkut's Institute of Technology.

Dr, Kosol Petchsuwan — Vice Rector.

(4) Institute of Dermatology.

Dr, Renoo Kotrajaras — Director.

(5) National Youth Bureau.

Dr, Saisuree Chutikul — Secretary General.

〔日本側〕

(1) 日 本 大 使 館

橘　　正 忠　　特命全権大使

中　村　昭太郎　　一等書記官

平　野　英　昭　　一等書記官

(2) JICA事務所

河　西　　明　　所　長

川　上　兼　行　　所　員

5. マレイシア国における主な訪問先、面接者

〔マレイシア側〕

(1) Asia Pacific Institute for Broadcasting Development.

Mr, R, Balakrishnan－Director.

(2) Ministry of Labour and Manpower.

Mr, Haji Alias Sulaiman－Director General, Manpower Department.

(3) Centre for Instructor and Advanced Skill Training.

Mr, Wan Seman－Director.

(4) Institute of Technology.

Prof, Nick Rasid－Director.

(5) University of Maraya.

(6) Public Services Department.

Tuan Haji Ahmad Sarji Din.

Abdul Hamid－Deputy Director General.

〔日本側〕

(1) 日本大使館

木　内　昭　胤　　特命全権大使

寺　田　輝　介　　公　使

小山田　安　宏　　一等書記官

(2) JICA事務所

中　村　　信　　所　長

6. 行 動 日 程

日順	月 日	曜日	時 間	行 動 内 容
1	7月16日	月		成田発（10:45 TG625）バンコック着（17:10）
2	17日	火	午 前	JICA事務所日程等打合せ
				日本大使館表敬，打合せ
			午 後	DTEC表敬，協力全般に係る意見交換
3	18日	水	午 前	青少年福祉センター訪問，施設見学及び活動状況の視察
			午 後	KMIT表敬，視察
				第三国研修について意見交換
4	19日	木	午 前	国立皮膚病研究所表敬，視察
				第三国研修について意見交換
			午 後	総理府青少年局表敬
				ASEAN青年招へい計画について意見交換
				バンコック発（19:45 TG981）シンガポール着 22:45
5	20日	金	午 前	シンガポール発（09:45 MH602）クアラ・ルンプール着10:35
			午 後	JICA事務所日程等打合せ
				日本大使館表敬，打合せ
6	21日	土	午 前	AIBD表敬，第三国研修について意見交換
7	22日	日		資料整理
8	23日	月	午 前	労働人的資源省，人的資源局表敬，CIAST協力について意見交換
				CIAST訪問，施設視察及び意見交換
			午 後	東方政策帰国研修員と懇談
9	24日	火	午 前	人事院表敬，東方政策，ASEAN青年招へい計画について意見交換
			午 後	マラ工科大学表敬，意見交換
				マラヤ大学日本文化研究館視察
10	25日	水		クアラ・ルンプール発（11:35 CX720）
				ホンコン着 15:05
				ホンコン発（16:30 CX500）
				成 田 着 21:15

II 協議等の内容（タイ）

1. 研修員受入事業窓口機関

Department of Technical and Economic Cooperation.（DTEC）

当国の技術協力窓口機関であるDTECにおいてアピラス局長及びプリヤ副局長と面談し，研修員受入れを含む全般的な技術協力につき意見を交換した。

(1) 冒頭同局長よりキングモンクット王工科大学における電気通信技術，国立皮膚病研究所における皮膚病，農業共同組合省畜産局における口蹄疫の第三国研修は，ＪＩＣＡの協力によりタイ国内のみでなく参加国からも高い評価を受けている。又今般キングモンクット王工科大学の拡張のためにグラントが認められたことを非常に喜んでいる。

当グラントにより新校舎が完成したら２,０００名の学生を増加する予定である。

(2) 自分としては今後マスターレベルのアカデミックトレイニングを実現したいと思っており，日本大使館とも相談したが，言葉の問題が大きいようである。英語でアカデミックなトレイニングが出来るようになれば当国の人造りに役立つものと思われるとの発言があった。

これに対し当方より

(1) タイ国からの研修員は１９８３年度で総受入数の１０％を越えており，今後とも両国の協力関係は増々強くなるものと考えられる。

(2) ＪＩＣＡは本年度新たに沖縄にセンターを建設しており，日本語専修コースを開設するとともに，視聴覚技術，コンピュータ技術の研修コースも実施する予定であり，タイ国からも積極的に参加して欲しい旨要望した。

総理府青少年局

アセアン青年招へい計画のタイ国窓口である青少年局においてサイスリー局長と面談し，同計画に係る現状，将来計画につき意見を交換した。

冒頭当方より

(1) アセアン青年招へい計画はＪＩＣＡとしても最善をつくして策定したが，初めての事業でもあり，スケジュールが若干ハードであった様である。又日本側カウンターパートの語学力の問題等もあったが，参加者より９０％くらいは満足してもらえたと思われる。

(2) タイ国の場合１グループ３８名が最大であるが，出来れば２５名程度がマナジリアルサイズと思われる。

(3) 農村でのホームステイは高い評価を受けており，今後とも努力して行きたい。

(4) 今年度の計画終了後トータルエバリュエーションを行う予定である。

又今後５年間は本計画を継続する予定であり，次回からは新たにブルネイからも招へいの

予定であるが，これにより他の５ケ国の割当て枠が減少することはないであろう旨説明した。

これに対し同局長は

(1) タイ国の場合出発前のオリエンテーションは相当ハードに行っており，来日後のスケジュールがハードであったとしても問題ないものと思われる。

(2) 日本側カウンターパートの英語力の問題がある由であるが，タイ人は自分から積極的に話さない傾向があるので，出来るだけ日本側参加者より話しかけてもらえる様お願いしたい。

(3) タイ国としても本計画への参加は初めての経験であったため参加者名簿の提出が遅れる等事務的な問題があった。特にバンコック以外からの参加者は連絡に時間がかかり，又最終段階で参加者の変更等があり，迷惑をおかけしたが，今後は改善に努力して行きたい。

(4) 来年度については，１グループ２５名編成とし，１度に２グループづゝ派遣する予定であり，十分マネッジ出来るサイズになるであろう。

(5) タイ側としても今年度最後のグループが帰国した後エバリュエーションを実施する予定であり，結果入手次第日本側にも通報するので，日本側のトータルエバリュエーションの結果についても他の４ケ国分も含めて英文にて連絡願いたい旨述べた。

2. 第三国研修実施機関

キングモンクット王工科大学ラクラバン分校

本校においては昭和５２年度より電気通信技術分野につき第三国研修を実施しており，参加者も昭和５８年現在で累計８９人に達している。

本校においてコソル副学長と面談し第三国研修のみでなく本校に対する他の協力も含め意見を交換した。

同副学長はわが国の協力に深く感謝しつゝ，ＪＩＣＡとの協力全般につき次の通り発言した。

(1) ＪＩＣＡとの協力関係が始まってから本年で２５年になり，この協力の結果タイ国の大学中でも高い水準を誇れるようになった。特に工学部はタイ国の一流大学であるチュラルンコン大学と比しても引けを取らないと自負している。

(2) エレクトロニクス，コンピュータ，電気通信等協力の対象となった分野は正に時宜を得たものであり，多くの優秀な人材を送り出しており，タイ国科学技術省の政策決定の場ともなっている。（同副学長は科学技術大臣のアドバイサーの職にもある由。）

(3) 国王，首相とも機会ある都度当大学の成功につき触れているが，ＤＴＥＣのスタッフがあまり来校しないのが残念である。（ＤＴＥＣとしては，当大学がわが国より多額の援助を受けていることに鑑み，同大学の要請を抑制している傾向がある様に見受けられる。）

続いて同副学長は，第三国研修につき次の通り発言した。

(1) 第三国研修コース開設当時は，タイ側スタッフの英語力の不足等多くの問題が発生したが，

回を重ねるにつれてこれらの問題も解決されて来ており，最近ではコースの運営に自信が持てるようになって来た。

(2) 本研修コースは周辺国からの参加者に対してメリットがあるのみでなく，タイ国にとっても日本側スタッフより，日本における最新の情報を得られることにより，大きなメリットとなっている。

(3) 研修内容については，日本の進んだ電気通信技術をタイ国がどのように導入し，定着させているか等出来るだけ広範囲なトピックにわたる知識を参加者へ与えて来た。

(4) 出来れば参加者に研修旅行の一環として日本の優れた当分野の現状を見学出来る機会を与えたいと思っているが，現在のシステムでは無理であろう。

(5) 次回のコースは2週間延長して17ケ国20人の参加者を予定しているが，フィージーで同分野の第三国研修を実施される由であるので，今後フィージー，バヌアツ，西サモアは除く方針である。

(6) 日本人専門家の派遣については，次回3名，派遣期間は1ケ月お願いしたい。（コース開始前の準備1週間，タイ側ティチングスタッフの訓練1週間，次年度のレクチャーノート作成のため1週間を含む。）

(7) 日，タイ間の費用分担については既に次回のBill of Estimate 原案は作成しているが，日本側負担6，タイ側負担4の割合いになると思われる。

(8) カウンターパートの受入れについては，出来れば前年度に引き続き考慮方お願いしたい。

なお58年度に供与した機材（Digital Switching 関係機械）の据付けのための部屋を改造中であり，8月中には据付けの予定である由であった。

国立皮膚病研究所

当研究所においては，昭和58年度より皮膚病学分野のディプロマコースが開設され，第一回目の参加者14名が研修中であった。

本研究所のレノー所長（女性）と面談し本件コースに係る問題点等意見の交換を行った。

同所長は本コースを成功させるためあらゆる努力をしていると述べつゝ次の通り発言した。

(1) 本コースの目的は未だ当分野の専門医が十分養成されていない参加国のGeneral Practioner（一般医師）に対し，皮膚病学を深く学習する機会を与えることにある。当研究所はタイ国厚生省，文部省よりディプロマを発給するための試験を実施する権限を与えられており，参加者全員が最終的に本試験に合格し，専門医としてのディプロマを取得することを目標としている。

(2) 参加者の英語力の不足が大きな問題である。特に中国の参加者の場合極端に低い。

(3) 参加者の中に基礎的知識が不足（特にバングラデシュ）の者がおり，研修内容にフオローするのに苦労している。

(4) 上記(2)，(3)の問題ある者についても，最終的には是非とも試験に合格させたいと思っており，

特別に補講を行ったり，又他の参加者の協力を得たりして，ブッシュアップする努力をしている。

(5) 出来れば成績が芳しくない参加者に対し補講を実施するため1～2ケ月間研修期間を延長するのが望ましい。（現行システムでは補講のため数人の参加者に対し研修延長は困難であり，将来ともディプロマコースとして継続するのであれば，ジェネラルインフォメーションの中にディプロマ付与条件を明記するとともに，参加資格をより厳格且つ的確にするようアドバイスしておいた。）

(6) 機材については可能であれば複写器（ゼロックス）及び通常の顕微鏡を1研修員当り1台要請したい。現在当研究所は6部局に対し20台保有しているのみであり，研修員の使用は非常に限定されているのが現状である。複雑，高度な機材は現時点では十分活用することは不可能であり不用である。（ＪＩＣＡ事務所と相談のうえ正式に要請あれば，本部にて検討の用意がある旨答えておいた。当研究所を視察した限り，同所長の献身的な努力にもかゝわらず，機材の不足は否めないところであり，又要請の内容も非常に地に足のついたものであることに鑑み，出来れば実現の方向で検討したい。）

3. その他のＪＩＣＡ協力関係機関

青少年福祉センター

本センターはわが国無償協力により体育，文化施設を建設，昭和57年に開所され，青少年を対象とした会員に対し，各種スポーツ，音楽等のレクレーション活動，洋裁，ヘアードレッシング等の職業訓練活動の指導を行うとともに活動の場を提供している。当センター所長ソーワラック氏（女性）と面談し活動内容について説明を受けると共に，現在までの活動実績表を入手した。（別添Ｉ）

なお海外青年協力隊員1名（バレーボール）が活躍中であるが，8月には更に1名の隊員（体育）を受入れ予定であり，現在は俗称タイ，日本福祉センターとして市民の間に定着している由であった。

Ⅲ 協議の内容（マレイシア）

1. 研修員受入事業窓口機関

人 事 院 （ＰＳＤ）

通常の研修員受入事業の窓口であるばかりでなく，マレイシア東方政策に基づく研修員受入計画，及びアセアン青年招へい計画の窓口でもある本院において，サルジ副総裁他と面談包括的な意見の交換を行った。

冒頭同副総裁は種々の計画によるＪＩＣＡの協力に対し深く感謝している旨述べた後，それぞれの計画につき次の通り発言した。

A，マレイシア東方政策に基づく研修員の受入れ

(1) 本件研修員の選抜については出来るだけ優秀な者を送るよう適性テスト等の導入も考えており，回を重ねるにつれて質の向上が見られると思う。

(2) 過去の研修結果を見ると研修員の日本語習得度が低いことが大きな問題である様だ。出来れば日本語講師の派遣を増強してもらいたいと思っている。

(3) 今後研修員のカテゴリーとしては，帰国後多くの人々に研修成果を広げるとの観点から，インストラクタークラスに重点をおく方針であるが，受入れ期間が長期でもあり，日本語の問題を憂慮している。

これに対し当方より

(1) 日本語講師派遣数の増加は困難である。

(2) 来年度４月オープン予定の沖縄センターで技術研修のための日本語コースを開設する予定であるので，マレイシア人日本語講師の養成を計ることを是非とも検討して欲しい。

(3) ＪＩＣＡとしては本計画による受入れに際しては，単に事務的な役割を果しているのみでなく，公的機関等の研修先の発掘，多額の経費負担，個々の研修員の研修成果の把握，及び公私にわたるケアー等全力を上げて取組んでいる旨説明した。

更に本計画の問題点，先方に対する要望として

(1) 個々の研修員の研修希望シラバスの中には，意味が不明確なものがあり，又あまりにも多くの希望内容が記載されており，プライオリティが付されていないため研修先の選定に困難を来たしている。

(2) 来日後研修員の意向とシラバスの内容の不一致が判明し，研修先の変更を余儀なくさせられるケースがある。

(3) インストラクターの研修は，内容によっては一般民間企業では受入れ困難であり，職業訓練機関でのみ対応可能である。本計画の目的の一つとして日本人の勤労倫理の習得が上げら

れているが，教育，訓練機関での研修につきマ側の考え方以何。

(4) 特に中堅幹部の受入れにつき，当方で研修先の選定と事務的手続きを終了した後に研修員の来日辞退，研修分野の異なる代替研修員の受入要請等のケースが生じており当方の受入作業が混乱している旨指摘のうえ先方の意向を質するとともに改善方申し入れた。

これに対し先方は

(1) 上記問題点については，今後迷惑をかけることのないよう日本側のアドバイスを得つゝ十分に注意を払い改善して行きたい。

(2) インストラクタークラスの研修には，前にも述べた通り重点をおく方針であり，現に韓国においては職業訓練機関で研修を受けているが十分成果を上げており，日本においても必要あれば教育，訓練機関で受入れてもらっても支障ないと思っている。

B，アセアン青年招へい計画

当方より既に実施済みのグループにつき，プログラムの概要，参加者の反応等につき説明を行い，特にマレイシアグループの問題点として，地方プログラム実施の際，宗教上の問題，及びそれに起因する食事等につき若干の問題が生じている旨言及した。

これに対し先方は，宗教はマレイシア人にとって，重要，且つ微妙な問題であるが，今後わが方の対応を容易にするためにも，個々の参加者に宗教上の食事の制限，アレルギー体質による食事の制限ありや否や，及び血液型等を明記したカードを持参させたいと述べた。

C，通常のベースによる研修員の受入れ

当方よりカウンターパート等の受入れはほゞ順調に進んでいるが，集団コースへの参加は割当て枠の６０％程度であり，今後参加促進方要請した。

これに対し先方は，ディグリーの取得不可能，家庭の同伴が不可能等の問題につき言及しつゝも，今後努力する旨答えた。

なおＪＩＣＡ事務所に本件につき確認したところ，先方はジェネラルインフォメーションが遅れる等種々の理由をあげているが，真の理由はＰＳＤ内において，通常ベース研修員受入担当セクションの能率が，東方政策，アセアン青年招へい計画等政治的にも重要な計画担当セクションと比して極めて低いことにある。この問題を解決するため，通常ベース研修員の受入事業促進のための定期協議を日本大使館，ＪＩＣＡ事務所，ＰＳＤ間で行うことで合意に達しているので，本協議を通じ改善を計って行きたい由であった。

2. 第三国研修実施機関

アジア太平洋放送研究所（ＡＩＢＤ）

本研究所において昭和５８年度，エレクトロ・ニューズ・ギャザリング（ＥＮＧ）の第三国研修が開始され，訪問時には第二回コースの準備が進められていた。

当研究所ラザクリシュナン所長と面談し，当方より第一回コースの成功を踏え，第二回コースの先方プロポーザルにつき次の通り発言した。

(1) 先方プロポーザルは，基本的には問題ないが，機材の要請リストについては多額でもあり，又来年度案件として実現するには時期的にも間に合わないと思われる。本件機材は次回是非とも必要な物でなければ，今後4～5年間のスパンで長期的に実現可能性につき検討して行きたい。

(2) 次回コースの日程が年度にまたがることは基本的には好ましくない。

これに対し同所長は

(1) 機械要請リストは次回コースに是非とも必要という物ではないので，出来れば向う5年間くらいの間に実現の方向で検討願えれば有難い。

(2) 日程が来年度にかかることは，当国の中国正月を避けた結果であり，コースの運営をスムーズに運ぶために取った処置である。（当方より来年度にずれこむ日数は僅かであるので止むを得ないと思われる旨答えた。）

(3) 当研究所に対するＵＮＤＰよりのファンドは近くなくなることになっており，ＪＩＣＡとしても長期的に本第三国研修の継続方考慮してほしい。

(4) 前々より当研究所のメンバーとして日本の加入を求めて来たが，是非近い将来実現したいと思っている。

同研究所は国際機関としてアジア太平洋地域の放送技術向上のため，多くの研修コースを設置しており，長年の経験の蓄積もあることから，本第三国研修の運営についても問題ないとの感触を得た。

なお同所長は１９８６年末には辞職する由であった。

3. その他のＪＩＣＡ協力関係機関

労働人的資源省人的資源局

アリアス局長と面談し，ＣＩＡＳＴ訪問の意向を表明し，今後の研修員受入れにつき意見を交換した。

冒頭同局長は本件協力事業につき次の通り述べた。

(1) ＣＩＡＳＴの進捗状況につき良く見てほしい。熟練工の養成は当国の重要な政策のひとつであり，初級，中級クラスのみでなく，将来アドバンスコースも開設したいと思っている。

(2) 本年度本プロジェクトのカウンターパートとして９名の受入れ枠を確保願っているが，出来れば今後毎年９名の受入れ方お願いしたい。

(3) 現在協力願っている東方政策に基づく研修員受入れ計画に，是非ＣＩＡＳＴからも研修員を出したいと思っている。

これに対し当方より

(1) 本年度受入れ枠のカウンターパートについては出来るだけ早期に正式要請書を出して欲しい。

(2) 東方政策の中でのCIASTからの研修受入れは，最終的にはマ側の問題であり，正式にマ国政府として要請越すのであれば問題はないものと思われる。

(3) 将来毎年9名のカウンターパート枠の確保出来るか否かについては，当方のシステム上現段階で確答は出来ない旨コメントしておいた。

なお当方より沖縄センターの業務につき説明し，CIASTのランゲージラボラトリーのための日本語講師養成受入れの可能性を打診したが，言語のみの研修員派遣はマンパワー上困難であるとの感触であった。更にJICAで受入れたセネガルのテレコミュニケーション研修員の成功例を説明し，技術研修と日本語研修を組合せた研修員派遣につき検討方促した。

職業訓練・上級技能訓練センター（CIAST）

本センターはASEAN人造りプロジェクトの一環として職業訓練指導員の養成，企業在職者に対する技能向上訓練，監督者に対する訓練等を実施する機関として設立され，当チーム訪問の際にはわが国無償資金協力による建物を含む施設の建設が進行中であり，既に一部の研修コースを実施中であった。

本センターにおいてワン・シーマン所長，JICA派遣専門家より建設進捗状況，将来計画等につき次の通り説明を受けた。

(1) 建設進捗状況については若干遅れ気味であるが，第2期工事を12月に完成し，4月からの全面開講に向けて急ピッチで進めている。

(2) 現在7名の専門家がJICAより派遣されており，既にIndustrial Training Instituteにおいて指導教育法，自動車整備については訓練を開始している。

(3) 当所のあるシャー・アラム市は現在人口3万人であるが，今世紀末には20万人の工業都市を造り上げる計画であり，高速道路の建設，ダム（1986年完成予定）建設等が予定されている。しかしながら当所オープン時の水の供給確保が現在解決を迫られている最も大きな問題である。

(4) 当センターのオープニングにはマハティール首相が出席の可能性もあり，場合によってはJICA総裁の出席方お願いすることになるかも知れない。

当所の建設中の施設を見た限りではランゲージ・ラボ等近代的設備が揃っており，これらの設備をフルに活用するためには日本語講師の養成等将来必要になって来るものと思われる。

マラ工科大学（ITM）

本大学は東方政策に基づく研修員受入れに係る日本語派遣専門家の受入れ先となっており，マレイシアのブミプトラ政策に基づいて設立された教育機関である。

本大学においてニック・ラシッド理事及び日本語専門家，日本語研修員として昭和58年11

月６日～昭和５９年４月３０日まで来日したHaji Abdul Razak bin Abdul Hamid氏（同大学語学センター講師）と面談した。

冒頭同学長より大学の概要について次のような説明があった。

(1) 現在当大学は１２学部を擁し，９０科目についてディプロマを発給しており，学生数も１万７千人に達している。

(2) 本大学では特に科学技術分野に力を入れており，マイクロコンピュータ（NEC）６０台を保有している。

(3) 政府関係団体とも密接な協力関係を持っており，ナショナルカー，マレイシア航空スチュワーデスのユニフォーム，マレイシア国鉄の客車等のデザインは全て本大学でデザインしたものである。

(4) 以前にＪＩＣＡより協力隊員（電子工学）を講師として派遣してもらったこともあり，後任者が欲しいと思っている。

(5) 又出来ればデザイン分野で研修員の要請を出したいと思っている。

当方より東方政策に係る日本語講師の活動につき更に協力方依頼しておいた。なおラザック氏が研修員として来日した際独自に東方政策に基づく研修員受入れ第３陣の研修員に対し，アンケートによる調査を実施した経緯があり，同氏よりその結果（別添Ⅱ）を入手した。

マラヤ大学（日本文化研究館）

当大学内にわが国無償資金協力により設立された日本文化研究館を訪問し派遣中の高校教師等と面談，施設を視察した。当館の活動概要は次の通りである。

(1) わが国国際交流基金より２名，文部省より５名の高校教師を派遣中である。

(2) 当館の活動内容としては，大学予科生の中で，主としてわが国に留学を希望する者に対し，数学，物理，化学，社会，日本語の授業を行っている。（いわゆるわが国の旧制大学入学のための予科の役割を果しており，期間は２年間の由。）

なお同館入学の競争率は６０倍に達するとのことであった。

(3) 日本語の授業については，教科書としてわが国国際学友会出版の日本語Ⅰ，東京外国語大学出版の日本語Ⅱを使用しており，授業時間は１年次４５０時間，２年次３５０時間，計８００時間実施されている。

(4) ２年次終了時マ国政府が実施する留学生試験を受け，合格者に留学資格が与えられる。

施設を見た限りでは，かなり設備も整っており，将来は日本文化研究の中心的役割を果す機関に育成して行きたい由であった。

Ⅳ　東方政策に基づく帰国研修員との懇談

７月２３日午後標記帰国研修員と帰国後の活動状況につきアンケート調査（別添Ⅲ）を行うとともに，懇談を行った。アンケート及び懇談の要旨は次の通り。

ほゞ全員がわが国での研修につき有意義であったとしているが，わが国で得た経験，知識を帰国後実践する上で以下の様な問題があるとしている。

(1)　日本で研修した機材が自分の職場にないため，ダイレクトな応用が不可能なことがある。

(2)　日本のワークシステムにつき講演等を行い導入を計っているが，多くの人の理解を得るには時間がかかる。

(3)　日本の場合労働と昇進，昇給が連動しているが，マ国の場合学歴（Paper Qualification）が最重要視されるため，日本的労働倫理の導入に障害となっている。

(5)　日本に存在する企業間競争がマ国では不足していることも障害の一つと思われる。

(6)　訪日後日本語が飛躍的に上達したが，帰国後勉強の機会が少ない。出来ればブラッシュアップの機会を与えて欲しい。

なお滞日中困ったこと，ＪＩＣＡに望むことにつき再三質問したが，当方のケアーにはほゞ満足しており，日常生活においても特段の苦労はなかったとしている。

X　おわりに

今回の訪問国はタイ，マレイシアと当事業団との協力の歴史が長く，又第三国研修を含む研修分野のみでなく，あらゆる技術協力分野において協力事業が展開されていることもあり，当方の協力システムについては，先方は熟知している感がある。

しかしながら近年アセアン青年招へい計画，マレイシア東方政策に基づく研修員受入れ等全く新しい形態の受入れ事業が開始されたこともあり，当チームとしてはこれら新規案件，及び来年度開設予定の沖縄インターナショナルセンターの業務につき特に重点を置いて意見を交換した。

アセアン青年招へい計画については当方，先方とも初めての経験であり，若干の試行錯誤があったもののその結果については両国ともほゞ満足している。問題点等については当方より指摘しておいたので今後回を追うごとに改善されていくものと思われる。マレイシア東方政策については第４陣まで応募者全員受入れを達成しているが，日本大使館，ＪＩＣＡ事務所等の見解を総合すると，マ国内でもマハティール首相の情熱で始まった本政策が実態として認識され始めており，同首相に代る有力な政治家も現段階では考えられないところ，少なくとも８０年代は継続する可能性が強いとの感触であった。

今後当方としてはあくまでも“先方の政策”に協力しているという姿勢を保ちつつ，受入れ体制の整備等全力を注ぐ必要があろう。

沖縄インターナショナルセンターの業務については一応当方より概要を説明し，積極的利用方勧奨しておいた。両国とも当方との協力関係の広がりからして日本語，コンピュータ技術等かなりのニーズがあるものと考えられるところ，今後とも継続的に先方の当センター業務に対する認識を深めさせる努力が必要と思われる。

先にも述べた通り両国とも当事業団との関係は深く，又先方要請も今後増々多様化していくものと思われるが，これまで蓄積されて来た実績の上に立って多様化に対応し得るよう相互の意見疎通を計っていくことが必要であろう。

別添1　タイ国青少年福祉センター活動概要

The youth welfare center(Thai-Japan)has its official openning ceremony on the 3rd of April 1982 which His Majesty The King had graciously presided over the ceremony. It is a unit within Recreation Division Social Welfare Department BMA, with its administration divided into 4 sections; General Administrative section, Technical section, Sport and Activities section, and Financial section.

1. Administration

With total of 58 officials 33 employees and 22 volunteers, They will provide services to the center's members from Tuesday to Saturday between 10.00-21.00 hours, Sunday and holidays between 13.00-18.00 hours. The center will be closed on Monday.

2. Services

The members of the center are divided into two main categories; The member of the youth center age 8-24 years and the member of the sport promotion center age 18 years and over.

2.1. The members of the youth center are divided into two categories in fee.

fee age 8-18 years 10 bahts per year

age 19-24 years 20 bahts per year

2.2 The members of the sport promotion center 18 years and over fee 40 bahts per year.

3. Activities

The activities for the members of the youth center are outdoor and indoor sports, recreation program and vocational training, which started in May 1st 1982 on Tuesday-Saturday 10.00-18.00 hours, closed on Sunday Monday and holidays. Now total number of the members are 13,055 with 6,691 males and 6,364 females.

The activities for the member of the sport promotion center are outdoor and indoor sports, which started in July 1st, 1982 on Tuesday-Saturday 18.00-21.00 hours, on Sunday and holidays 13.00-18.00 hours, closed on Monday. Now the total number of the members are 8,195 with 4,193 males and 4,002 females.

Statistic from January 1983 to April 1984

Kinds of Sports	Jan. 1983	Feb.	March	April	May	June	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	Jan. 1984	Feb.	March	April	May
Tennis	89	85	246	259	153	89	156	163	130	224	272	234	187	256	297	370	390
Badminton	101	218	219	261	432	240	468	508	396	301	292	-	45	356	196	1,096	1,242
Boxing	147	784	598	473	255	361	767	779	518	475	192	94	174	298	466	308	414
Judo-Aikido	152	147	316	695	477	488	874	935	797	908	702	228	288	780	933	667	658
Weight-Lifting	139	371	377	175	240	369	862	954	686	830	1,030	506	505	903	1,056	586	795
Football	2,106	2,075	2,377	2,213	2,467	786	4,206	4,912	4,450	2,234	1,376	1,184	1,423	1,524	1,979	1,695	1,794
Basketball	408	2,059	1,289	658	433	370	1,140	1,064	708	518	666	641	585	659	798	428	585
Valleyball	300	1,771	1,279	925	380	256	766	847	571	526	601	546	443	546	665	410	461
Table-tennis	812	2,265	2,605	1,878	685	1,062	2,529	2,623	1,975	969	1,182	279	367	675	1,018	616	437
Gymnastic	383	445	717	717	772	717	2,102	2,182	725	562	223	-	58	160	341	1,271	1,688
Takraw	35	180	42	67	138	173	289	325	203	216	210	241	284	411	422	271	350
Krabee-krabong	111	236	325	202	207	159	216	206	227	310	326	313	297	291	290	312	376
Physical fitness	42	-	-	204	240	361	422	508	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Swimming	76	1,158	2,361	2,242	1,666	2,026	3,139	4,480	1,986	1,604	1,002	866	638	1,758	2,541	4,069	2,579
Track & field	123	674	397	447	292	560	1,090	1,099	409	608	752	683	468	348	370	133	88
Total	5,024	12,468	13,378	11,415	8,837	8,017	19,035	21,585	13,781	10,285	8,826	5,815	5,762	8,965	11,372	12,232	11,857

The statistic of the members of the sport promotion center 18 years and over which participated in each activity from july 1982 to April 1984

Kinds of Sports	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	Jan. 1983	Feb.	March	April	May	June
Basketball	630	485	409	667	553	525	176	313	1,046	470	423	470
Valletball	412	216	351	625	456	541	279	305	738	597	349	320
Tennis	232	291	180	244	309	240	41	232	258	253	326	195
Takraw	131	149	134	273	213	239	188	203	306	170	154	169
Boxing	330	420	371	231	214	153	302	411	454	323	309	369
Weight Lifting	474	467	612	285	430	382	426	556	700	640	707	623
Judo-Aikido	137	681	621	301	351	321	301	430	693	445	636	729
Badnubti	552	612	676	853	538	759	1,255	1,259	1,712	1,092	1,233	866
Tabke-tennis	594	760	714	485	356	416	299	695	560	636	512	461
Physical fitness	801	997	684	447	409	332	246	714	622	511	486	412
Swimming	-	-	-	-	-	101	84	1,158	1,116	1,193	573	1,446
total	4,293	5,078	4,924	4,411	3,829	4,009	3,597	6,276	8,205	6,330	5,707	6,060

Kinds of Sports	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	Jan. 1984	Feb.	March	April	May
Basketball	556	738	658	658	729	604	803	890	1,010	738	710
Valletball	420	581	531	371	512	137	594	665	951	1,154	838
Tennis	321	351	168	128	281	214	465	442	454	568	478
Takraw	206	243	273	199	330	227	306	328	381	289	425
Boxing	450	244	475	493	603	694	446	559	349	300	380
Weight Lifting	870	764	822	785	1,481	1,352	760	879	1,125	881	1,052
Judo-Aikido	752	901	973	823	1,272	889	740	969	927	907	818
Badnubti	1,572	2,423	1,477	941	736	81	183	691	748	730	1,030
Tabke-tennis	814	974	642	705	637	374	462	634	459	376	415
Physical fitness	329	374	540	451	309	282	381	881	1,185	955	1,448
Swimming	2,170	2,532	2,054	856	378	95	372	1,173	2,274	1,866	2,002
total	8,514	10,125	8,613	6,410	7,268	5,249	5,512	8,111	9,863	8,764	9,596

Remark Swimming for the promotion center started in December 1982

Recreational Activities

Activities	May 1982	June	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	Jan. 1983	Feb.	March	April	May	June	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.
Library	1,646	754	1,827	1,204	704	1,383	676	941	708	828	585	1,427	740	647	1,647	1,511	1,137	944	659	288
Thai Classical dance	107	49	36	45	229	34	281	536	663	517	456	347	263	235	187	196	227	509	669	472
Art	28	31	72	20	66	52	54	49	50	14	20	32	18	41	21	20	-	64	-	-
Thai music (ungkalung)	-	-	-	25	21	25	22	21	39	34	29	21	23	65	35	38	10	509	669	472
Movies show	226	426	887	773	1,056	1,710	200	359	200	450	661	605	508	392	696	464	-	100	-	236
Guitar	-	-	36	77	35	42	30	54	26	10	28	28	76	78	-	-	99	509	669	514
Games	333	99	965	100	135	952	359	481	120	508	805	1,000	735	461	1,695	1,180	302	296	213	-
total	2,380	1,359	3,823	2,244	2,282	4,198	1,713	2,441	1,806	2,261	2,584	3,460	2,547	1,909	4,281	3,409	1,775	2,931	2,879	1,982

<u>Remark</u> Thai Music started in August and Guitar started in July.

Recreational Activities

Activities	Jan. 1984	Feb. 1984	March 1984	April 1984	May 1984
Library	248	453	1,418	1,018	657
Thai classical dance	540	368	593	269	260
Art	-	-	-	-	-
Thai music (ungkalung)	-	-	-	-	-
Movies show	526	221	178	574	293
Guitar	35	35	35	-	50
Games	-	-	109	605	700
Total	1,349	1,077	2,333	2,466	1,960

Vocational Training 14 Years and over

Kinds of sports	May	June	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	Jan	Feb.	March	April	May	June	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.
Women dress maker (Saturday and Sunday)	35	35	35	25	25	22	50	37	23	23	9	-	33	20	18	18	18	91	123	89
Women dress maker (Tuesday to Saturday)	-	-	-	18	17	-	-	-	-	-	-	-	30	35	32	32	-	-	-	55
Hair dressing (Tuesday to Saturday)	-	-	-	17	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	25	31	63	50
Hair dressing (Saturday and Sunday)	-	-	-	-	-	-	18	15	11	15	15	-	36	35	29	-	-	-	-	27
Electric (Tuesday to Saturday)	-	-	-	12	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
Electric (Saturday and Sunday)	-	-	-	-	-	-	30	18	15	12	12	-	15	30	28	28	7	44	78	44
Total	35	35	35	72	62	22	98	70	59	60	36	-	124	120	109	107	50	166	264	291

Vocational Training 14 Years and over

Kinds of sports	Jan. 1984	Feb. 1984	March 1984	April 1984	May 1984
Women dress maker (Saturday and Sunday)	42	37	21	86	61
Women dress maker (Tuesday to Saturday)	37	33	75	46	41
Hair dressing (Tuesday to Saturday)	29	26	16	29	24
Hair dressing (Saturday and Sunday)	27	23	37	28	24
Electric (Tuesday to Saturday)	21	21	80	50	36
Electric (Saturday and Sunday)	17	10	5	19	12
Cooking (Saturday and Sunday)					12
Handicraft (Tuesday and Saturday)					11
Total	173	150	234	258	221

Budget

The Youth Welfare Center (Thai-Japan) got financial support from the BMA. as follows:

monthly permanent expenditures

1. Stipend for official, workers, and volunteers about	244,080	Baht
2. Electric, water supply & telephone about	171,172	Baht
3. Security guard	94,900	Baht
4. Cleaning maintenance	65,854	Baht
5. Other expenditures (sports and games equipment)	130,000	Baht
total	706,006	Baht

別添Ⅱ　元研修員ラザク氏による東方政策第3陣に係るアンケート調査結果

RESULT OF THE QUESTIONNAIRE FROM THE
THIRD BATCH LOOK EAST 'IN-PLANT' TRAINEES,
OCTOBER, 1983-MARCH, 1984.

The aim of this questionnaire is to know the performance and problems faced by the third batch Look East 'in-plant' trainees who have undergone their in-plant training at the companies concerned in Japan. The result of the questionnaire will be of great help to the authorities concerned in order to improve the training programme.

This questionnaire has been sent out to 192 trainees (95 of them sponsored by JICA and 97 by AOTS). Out of these, only 150 of them have completed and returned the questionnaires.

AGENCY	SENT	RECEIVED	PERCENTAGE %
JICA	95	75	78.09
AOTS	97	75	77.3
TOTAL	192	150	77.6

The answers gathered from the questionnaires are divided as follows:

I BIO-DATA

4. Type of accomodation while undergoing trainning. L Thick ( ) at the appropriate place I

(a)

Hotel	30	20%
Hostel (Company)	100	66.6%
Hostel	18	12%
Ownself	2	1.3%

Monthly payment———————————

(b) How do you get your accomodation?

Provided by the company/institute/firm	132	86.6%
Searched ownself	4	2.6%
	13	8.6%

(c) Comfortability of accomodation:

Very comfortable	45	30 %
Comfortable	56	37.3%
Average	41	27.3%
Less comfortable	7	4.6%
Not comfortable	1	0.6%

5. Food

(a) How do you get your food?

Provided by the company/institute/firm	94	62.6%
Searched ownself	49	32.6%
Cooked ownself	7	4.6%

Overall monthly expenditure ——————————

(b) Are the food provided

Always can be eaten	75	50 %
Sometimes can be eaten	60	40 %
Cannot be eaten	5	3.3 %

(c) How is the food problem to the Muslim trainees?

Become a big problem	22	16.8%
There are problems but can be overcome	105	70 %
The problems are just average	4	2.6%
Less problem	3	2%
No problem	10	6.6%

Please give a brief account on your choosen answer:

____

____

____

____

ç. Transportation to the training center:

Company's transport	8	5.3%
Train	70	46.6%
Bus	45	30 %
Bicycle	6	4%
Walking	21	14 %

7. Religion.

Are you given the opportunity or time to do your daily prayers?

Always being given	109	72.6%
Sometimes being given	14	9.3%
Difficult to obtain	3	2%
Less being given	3	2%
Not at all	1	0.6 %

8. Are you under the sponsorship of:

JICA	75	AOTS	75

II KNOWLEDGE OF THE JAPANESE LANGUAGE.

9. Explain your command of the Japanese Language before coming to Japan;

Very fluent	0	-
Fluent	7	4.6%
Average	106	76.8%
Less fluent	26	17.3%
Not Fluent	9	6%

If it is divided into ORAL and WRITTEN

	ORAL	STAGE	WRITTEN	
-	0	Very fluent	1	0.6%
6 %	9	Fluent	29	19.3%
55.3%	83	Average	99	66 %
20.6%	31	Less fluent	13	8.6%
5.3%	8	Not fluent	6	4%

III. THE TECHNICAL TRAINING GAINED IN JAPAN

(A) KNOWLEDGE

10. Explain the level of technical knowledge that you have gained after undergoing the 'in-plant' training in Japan.

Very sufficient	3	2%
Sufficient	42	28 %
Average	81	54 %
Less sufficient	9	6%
Not sufficient	15	10 %

11. Is the Knowledge gained

(a) Useful

Very useful	68	52 %
Useful	59	39.3%
Average	22	14.6%
Less useful	1	0.6%
Not useful	0	–

(b) Related to the training requirements:

Closely related	58	38.6%
Related	67	44.6%
Few related	22	14.6%
Less related	1	0.6%

(c) Can it be used in your present work?

Can be used fully	29	19.3%
Can be used mostly	70	46.6%
Certain parts can be used	43	28.6%
Less can be used	5	3.3%
Cannot be used at all	3	2%

(d) Can it be gained in Malaysia without undergoing any training in Japan?

Can be gained in Malaysia	Same standard	22	14.6%
	Not in detail	120	80 %

(B) SKILL (Your ability in practical work)

12. Explain the level of technical skill gained after undergoing the 'in-plant' training in Japan:

Very sufficient	4	2.6%
Sufficient	39	26 %
Average	84	56 %
Less sufficient	14	9.3%
Not sufficient	9	6%

13. Is the skill gained

(a) Useful

Very useful	70	46.6%
Useful	56	37.3%
Average	17	11.3%
Less useful	4	2.6%
Not useful	1	0.6%

(b) Related to the training requirements:

Closely related	55	36.6%
Related	73	48.6¢
Few related	14	9.3%
Less related	3	2%
Not related	2	1.3%

(c) Can it be used in your present work?

Can be used fully	32	21.3%
Can be used mostly	71	47.3%
Certain parts can be used	31	20.6%
Less can be used	9	6%
Cannot be used at all	3	2%

(d) Can it be gained in malaysia without undergoing any training in Japan:

Can be goined in Malaysia	Same standard	27	18 %
	Not in detail	114	76 %

IV ATTITUDE/OPINION ON THE TRAINING

14. Explain your level of interest while undergoing the training in Japan:

Very interested	95	63.3%
Interested	41	27.3%
Average	5	3.3%
Less Interested	2	1.3%
Not interested	6	4%

15. What is your opinion on the DISCIPLINE of the workers in Japan?

Should be followed	107	71.3%
Some can be followed	42	28 %
Less can be followed	0	-
Cannot be followed	0	-

16. What is your opinion on the WORKING ETHICS that exist in Japan?

Very effective	92	61.3%
Effective	52	34.6%
Average	4	2.6%
Less effective	0	-
Not effective	1	0.6%

17. What is your opinion on the WORKING CONCEPT as a group while you are undergoing your training in Japan?

Very good	112	74.6%
Good	35	23.3%
Average	1	0.6%
Less good	0	-
Not good	0	-

18. Do you BELIEVE IN THE SUCCESS of this 'in-plant' training programme?

Very confident	47	31.3%
Confident	87	58 %
Less confident	15	10 %
Not confidnet	0	-

19. Are you INTERESTED in programmes such as these ones, in the near future?

Very interested	100	66.6%
Interested	43	28.6%
Less interested	3	2%
Not interested	2	1.3%

V SOCIAL

20. Have you the opportunity to mix socially with the workers at your training centre?

Always have the opportunity	113	75.3%
Sometimes	33	22 %
Less opportunity	4	2.6%
No opportunity at all	0	-

21. Do you get any help in the form of advice and guidance from the workers at your training centre?

Always getting help	120	80 %
Sometimes	23	15.3%
Less	7	4.6%
Not at all	0	-

22. Do you take initiative to contact the workers at your training centre?

Always	112	74.6%
Sometimes	36	24 %
Less	1	0.6 %
Not at all	1	0.6 %

VI CONCLUSION.

23. Please give other comments which you think are useful for the success of this 'in-plant' training programme.

(a) LANGUAGE. NO OF TRAINEES

(i)	More oral practices should be carried out during the intensive Japanese Language course.	23
(ii)	Since information and instruction are in Japanese and many 'Kanji' characters are being used, tra-	

inees should be taught many 'Kanji' characters. 12

(iii) The lists of technical terms should be given to the trainees while they are still in Malaysia. 23

(iv) Language becomes a communication barrier between the trainees and the Japanese people. 11

(v) Reference books in Malay and English Language are a great help to the trainees 2

(b) <u>TRAINING</u>

(i) More than one (but not too many) trainees be placed at one training centre so that they can carry out discussion on their training programmes. 5

(ii) Syllabi on the training programmes should be sent to the companies concerned before the trainees join the companies for their training. 13

(iii) More practical work rather than observation is effective in the training programme. 10

(iv) The placement of trainees to the companies concerned should be in accordance with their qualifications and experience. 20

(v) Theory tests on the fields concerned should be carried out in Malaysia. 2

(vi) Trainees should be given detail information on the 'Look East Policy' and the 'in-plant' training Programmes. 6

(vii) Trainees should send regular report to the Malaysian Embassy and the Public Service Department. 3

(viii)	The Public Service Department should send questionnaires to the trainees and companies to get information on the training programmes.	4
(ix)	Trainees should be chosen from those who have the information on the training programmes.	4
(ix)	Trainees should be chosen from those who have the interest and experience to undergo the 'in-plant' training programmes.	22
(x)	The duration of the training in Japan should be lengthened.	21
(xi)	The transfering of trainees from one place to anther is not so useful and a waste of time.	5
(xii)	Three weeks are too long for the orientation of trainees soon after their arrival to Japan.	3
(xiii)	A follow-up programme after this 'in-plant' training programme is useful.	2
(xiv)	Officers from the Malaysian Embassy and Public Service Department should make frequent visits to the companies concerned.	11

(c) GENERAL.

(i)	The trainees should be exposed on the life in Japan before coming to Japan to undergo their training programmes.	6
(ii)	The trainees should be prepared to explain about Malaysia for example through magazines and the likes to the Japanese people.	3

(iii) Information on the Islamic Religion should be given to the companies concerned for the benefits of the Muslim trainees.

(iv) The amount of allowance should be revised. 3

I am gald that this study can be completed while I am still in Japan. I am grateful to those, as mentioned below, for their cooperation in helping me to complete this study successfully. Without their help, I am sure I will not be able to complete this study before I return to Malaysia.

1. Ms. Takahashi Michi,
   Tokyo International Centre.

2. Professor Kinio Okuda,
   Faculty of Education,
   Hiroshima University.

3. Officers of the Chugoku Branch Office,
   Japan International Cooperative Agency,
   Hiroshima.

4. Ms. Asmah Mohd. Taib,
   (Malaysian Student),
   Department of Sociology of Education,
   Faculty of Education,
   Hiroshima University.

Finally, I would like to express my sincere gratitude to those concerned for the success of this study.

(Haji Abdul Razak bin Abdul Hamid) JICA, Trainee.

Hiroshima.
22nd. April, 1984.

別添Ⅲ　東方政策に基づく帰国研修員に対するクエスチョネア

QUESTIONNAIRE

To Ex-participants in the training programme under the Look East Policy of the Government of Malaysia

Please reply to the following questions. In order to improve the future programme, your frank opininons and suggestions are welcomed. (please write in block letters.)

I. General questions

(1) Name (Please underline your surname)

(2) Date of birth

(3) Home address

(4) Training programme you participated in (1st batch /2nd/ 3rd/ or Executive Training)

(5) Field of Training

(6) Year of participation :19_____

(7) The name of company in which you underwent training

(8) Occupation

a) Your present position and official address

b) Please describe your duties in the present service briefly.

c) Employement record since the year of your participation

Duration of Service	Position	Organization
–		
–		
–		
–		
–		
– present		

d) Please draw a chart of the organization (Starting from a "division/section" as the lowest level), and indicate your section in an annexed paper.

II. Reviewing your study in the specialized field

(1) How is the technology you studied in Japan contributing to your present job ?

(2) If there are any difficulties in applying it to your present job, what do you think are the reasons ?

III. Reviwing your study in the working manner (work ethics) of Japanese workers

(1) What was your impression on the working manner of Japanese workers?

(2) In what way are you trying to introduce the Japanese way of work into your present job?

(3) If there are any difficulties in its introduction, what do you think are the reasons?

IV. Reviewing your study in Japanese language

(1) How was your Japanese.language useful while you were in Japan?

(2) If it was not so useful, what do you think are the reasons?

V. Reviewing your life in Japan

(1) What impressed you most?

(2) What are the most difficult things to adapt to?

VI. If there are any matters which we (JICA and the companies) have to consider for making your study and life in Japan more effective and easier, please describe them.

(1) On your study

(2) On your life

VII. Please describe anything freely.

ANNEXED PAPER

Chart of the organization